

フォレスト三日市説明会（2/5(金)18:30~20:00）質疑応答

Q1.

10年間で1億2千万円の収入で運営されると12月の市議会報告に掲載してあるが本当か？
10年間契約業者としてやってもらえるのか？

A1.

施設の賃借料として10年間で1億2千万円入れていただくことになっております。
10年間での契約予定です。

Q2.

利用者にとってのメリットは？

A2.

今までできた事は引き続きしていただけるように調整中です。
ウェルネスフォレスト三日市のスペースと乳幼児健診センターの一部スペースを利用することによって使用面積を増やしストレッチルームの設置など拡充を計画中。
合わせて身体の健康だけでなく心の健康を考えたカルチャースクールを併設予定。
健康の多様性が生まれるといった点がメリットと言えるのではないかと考えております。

Q3.

現在プールが3レーンしかない事によって他のレッスンは重なり泳ぐスペースがなく不自由をしている。他のスポーツクラブは5レーンあって利用時不自由を感じない。プールの改善についてどうお考えか？

A3.

今のご意見を参考にさせていただいて、レッスンの構成・配置などを検討の上、上手く共存できる方法を検討したいと思う。

Q4.

利用料金は今までは市の補助が出ていたので安く設定されていたが民間の事業になることで値上げは避けられないと思う。そのあたりはどのようにお考えか？

A4.

今後は公費からの補助はない状態での契約となります。企業としては付加価値を加えることで収支計画を立てたいと思っております。詳細はこれからですが利用者のご負担が若干増えることもあるかと思いますが、検討して適正な料金体系を決めていきたいと考えております。

Q5.(要望)

15年間6000円という低額で利用でき、活用してきたので生活の一部となっている。民営化される事によって市内の同業者と競合することになり利用料金が値上がりすることを心配している。そのあたりは市と尾崎スイミングスクールとの話し合いで少しでも負担が軽いうようにしてほしい。

Q6. (要望)

民営化することによって利用料金が1万円～1万2千円になるという噂が飛び交っている。初期からの会員としては最初の運業者の時に安い定額料金でプール、ジムが利用できイベントも多く満足していた。現運業者 HOS になってからイベントなどは追加料金での利用となり利用しにくく、年金暮らしにはつらい。

高齢者割合が全国で一番といわれている河内長野市なのに南花台の団地跡も女子サッカーチームのグラウンドにするという噂を聞く。

どうして高齢者が多い市で高齢者のための高齢者に優しい利用ができないのかと思う。

同様に健康支援センターも民営化され高額な利用料金になると高齢者は利用できなくなり、作った意味がないのではと思う。市も尾崎スイミングスクールもその点をよく考えて欲しい。料金が折り合えば引き続き利用したい。

Q7.

健康推進課として、市民の健康推進、健康維持、健康回復のために運営されていたと思う。今回民営化にあたって、議会では、財政の赤字回復、市が参入することによって民業圧迫しないようにと理由を述べているが意味がわからない。民間業者は健康増進や健康ブームに乗っかって営利目的で営業し、利益を追求することになる。尾崎スイミングスクールが利益度外視で健康増進のため利用料金の値上げもせずサービスも向上されるのならば歓迎する。市は尾崎スイミングスクールの賃借料金を安くして利益が上がるようにすれば、利用者の負担を少なくして、充実した内容になるのではないか？

A7.

今日お集まりいただいている健康支援センターを熱心に活用していただきご満足いただいている方々がいる一方、健康支援センターで現在のような健康支援事業を行政が運営する必要があるのかという意見も常々いただいていた。

健康支援センターができた当初は高齢化率も20パーセント台で40代、50代の層が多く、健康を維持するための活用目的を主として健康支援センターの意義があった。15年経った現在、高齢化率も40パーセント近くになろうとし、施設を活用できず家から出ることができない市民の方も多くなっている。そういう方たちへの対応ができるような健康づくりに変わっていかなければならない時期となっている。まちづくりとして考えると医療体制の強化、介護の充実をしゅくみ全体として考えていかなければならない局面にきている。合わせて現在の施設を引き続き利用できるようにするための民営化である事をご理解いただきたい。市は家賃収入を得ますが、当施設の維持費の一部であり、まだまだ予算は割かなければならない状態です。他の事業に変えるのではなく、10年間、今の施設を続けるための民営化と想っていたいただきたい。

Q8.

まちづくりの為の施設の話をしているのではない。高齢者の介護や医療体制の強化は市がやって当然なこと。健康づくりも合わせて両方やるのが行政。民間は美容のため。市の運営は健康維持、回

復に重点を置いたもの。利用する目的が違うのだから民業圧迫にはあたらないはず。
市が先にやっていた事業に民間が後から参入するのに民業圧迫とは言えず納得できない。
(Q7の内容を再度主張)。とにかく、利用料金が値上げされる事には絶対反対。値下げしても良いくらい。内容も健康推進課の指導のもとプログラムを充実されるべき。
共益費、管理費の詳細金額も知りたい。尾崎スイミングは賃借料のみの負担で共益費、管理費負担しないならばきちんと説明をしてほしい。

A8.

後ほど、個別にて、資料を見せていただいて共益費、管理費の説明いたします。
施設を民営化後も市の負担は全くなくなるわけではなく、共益費などで何千万円もの支出があることになる。賃借料に関しても通常の額よりも抑えることができるよう法律にのっとり議会で決定させてもらった。

Q9.

利用者の全体のシェアはどれぐらいですか？

A9.

最新のデータによりますと

登録者数の年代別人数は概数ではありますが、80代以上 150人 70代 900人 60代 1100人
50代 1000人 40代 1100人 30代 1200人 20代 1600人となっている。

利用者は高齢者が多く、利用時間帯も午前中が多い。男女比は男 47.1 パーセント、女 52.9 パーセントとなっている。

登録者で見ると若い世代の登録も多いが、登録のみとなる事が多く実際の利用に繋がらず利用者減少となった。

HOSもDM送付、新マシーンの導入など努力したが利用者増に結びつかず経営が厳しくなった。
新業者とはスペースが増えるということでトレーニングルーム、コミュニケーションスペースの増設などを計画しあらゆる世代の方に利用していただけるよう話し合いを重ねております。

Q10.

2005年8月オープン時より15年間ほぼ毎日通い健康を維持する施設として利用してきた会員です。
80歳近くなったが日頃の健康づくりのおかげで介護認定を受ける事もなく健康に過ごしてきたのは健康支援センターのおかげとっております。

2005年8月健康支援センター開設時に財団法人「健康管理開発センター」は目標として「正しい健康づくりをモットーに心身の健康の維持増進をはかることを目的とする」と表明されてきました。
続くHOSも目標を「今後の健康と快適をテーマに最高のHOSプランを提供できる企業でありたい。市民の健康を願う企業でありたい」と掲げ運営されていた。市民が安心して引き続き利用できる施設と思っていた。ところが突然張り紙にて民営化されると知らされた。利用者は納得できず、説明会を開く要望をあげ署名活動もさせていただいた。健康増進を担う公的施設が民業圧迫という表現は非常に不適切で納得いかない。民営化することが丸投げではないという、市の具体的な健康推進に関わる内容説明を要求する。市と尾崎スイミングと利用者が回を重ねて話し合いの場を設け双方

納得いくようにしてほしい。今日上がった声を元にプログラム、料金体系に反映させて欲しい。尾崎スイミングに経営が変わっても市民の健康増進、健康維持に関わる施設であることは変わるものではない事を明確にして欲しい。

A10.

今後も尾崎スイミングと健康推進課は連携をとりながら施設の機能を維持して運営していきたいと考えております。

市の思いといたしましてはできるだけ今までと変わらずご利用いただけるように尾崎スイミングにお願いしていきたいと考えております。

今日お聞かせいただいたご意見、内容を整理させていただき次回の開催は3月初旬に考えております。その時には尾崎スイミングの方より料金内容含めご説明できるよう調整を進めたいと考えております。

Q11.(要望)

指導する立場より尾崎スイミングへの要望としましては、市民の高齢化が進む中、利用者の要望の声も多いため、ロコモ体操やリハビリに準ずるプログラムを多くメニューに増やしていただくようお願いしたい。

Q12.(要望)

料金体系の細分化を要望。午前中のみ利用、午後のみ利用、65歳以上利用などそれぞれの利用料金を設定して欲しい。